



田淵行男 たぶちゆきお (1905 ~ 1989)
 明治38年、黒坂村(現日野町)で生まれ、東京高等師範学校(現・筑波大学)を卒業し教職に就く。昭和20年に長野県安曇野に疎開し、高山蝶の生態研究・撮影に取り組む。昭和36年、豊科町に居を移し生涯をその地でおくる。昭和59年に同町の名誉町民第1号になり、没後、平成2年に田淵行男記念館が開館。年間を通じて多くの自然愛好者が訪れている。日本各地の山岳写真やエッセイ集など生涯で37冊もの著作を発表。

科学者、写真家、詩人

自然を愛したナチュラリスト

6月13日から26日の間、山村開発センターで、

山岳写真の第一人者、故田淵行男さんの作品展を開きます。

田淵さんは、日野町(旧黒坂村)出身で明治38年に黒坂に誕生、小学4年生まで黒坂に住んでいました。その後、東京高等師範学校(現・筑波大学)を卒業して教職に。昭和20年、長野県安曇野に疎開し、高山蝶の研究や山岳写真に取り組みました。

昭和36年には、豊科町(長野県)に居を移し、生涯をそ

の地で過ごしました。

昭和59年、同町名誉町民第1号となり、没後、記念館約7万3千点を収蔵)が建てられました。今回の作品展は、

田淵さんの生誕100周年(来年6月)を記念して「生誕の地である日野町で作品展を開きたい」と、長野県豊科町の申し出により実現しました。

田 淵行男さんは、山岳写真において日本の第一人者であり、高山蝶の研究者としても高い評価を得ました。

また、詩人としても知られており著書、写真集は30冊を超えます。



精密に描かれた直筆の蝶

また、詩人としても知られており著書、写真集は30冊を超えます。

世 界的な高山蝶の研究者の田淵さんは、日本ア



自然のあるべき姿を追い続けた田淵さん

ルプスに生息する高山蝶について34年の歳月をかけてその生態を明らかにしました。その細密画は、本物の美しさを持った図鑑を作りたいとの思いから取り組み、直筆の蝶画は細部まで忠実に描かれ、生きいきとして魅力的です。

山 岳写真についても我が国の第一人者で、長野県への疎開をきっかけに、北アルプスと安曇野を中心に山岳写真を撮り続け、20冊を超える写真集を出版しました。田淵さんは、いつも愛用のピッケルを手に「山の写真はこれだけなければ写さない」というこだわりのカメラと、自

分でデザインした特注の黄色いテントを担いで山々を歩き回り、納得いくまで自然の中で山を眺め、作品づくりに没頭しました。なかでも常念岳(2857m)への登行は206回を数えます。

山岳写真は、自然のあるべき姿を問い続け、被写体と一体になったときにシャッターを切るといふ厳しい姿勢と芸術性の高い撮影方法は、他に類がなく数々の賞を受賞しています。

今 回、日野町で開かれる作品展は、山岳写真や直筆の高山蝶細密画、研究道具などが展示されます。また、

初日の6月13日には、田淵行男記念館赤羽行雄館長の講演、田淵さんの直弟子でカメラマン水越武さんのギャラリートークも行います。

田淵さんの作品は、一点一点に自然からのメッセージが込められています。ぜひ、この機会にご来場ください。

【問合せ先】

日野町文化センター
 (電話0859 72 1300)